

令和2年度士別市総合教育会議（第2回） 会議録

- 1 日 時 令和2年10月12日（月） 午後1時30分～2時24分
- 2 場 所 士別市役所2階 庁議・来賓室
- 3 出席者 **【構成員】** 牧野市長、中峰教育長、五十嵐教育長職務代理者、馬場委員、加藤委員、山田委員
【事務局】
 - ・教育委員会 鴻野生涯学習部長、三上合宿の里統括監、須藤学校教育課長、武山社会教育課長**【説明員】**
 - ・総務部 丸財政課長
- 4 報 道 2名
- 5 次 第 1 開会
2 あいさつ
3 協議・説明事項
 - (1) 士別市財政健全化実行計画（案）について
 - (2) その他4 閉会

1 開会

●鴻野生涯学習部長

はじめに、牧野市長からご挨拶いただき、その後議長として進行願う。

2 あいさつ

●牧野市長

あいさつ要旨

- ・今年度は5月14日に続いて2回目の総合教育会議となる。
- ・委員の皆さんには、教育の分野のみならず、地域づくりのリーダーとして活躍いただ

き、感謝申し上げます。

- ・学校の臨時休業による遅れについては、今のところ順調に取り戻すことができている。修学旅行や少年団野球など精力的な活動が増えている。
- ・本日、午前11時に榎本組合長をはじめとする北ひびき農協のみなさんから、ふるさと給食の材料として新米・玉ねぎ・馬鈴薯・南瓜をいただいた。ふるさと給食には教育委員の皆さんにも参加いただいて子どもたちと交流していたが、今年はコロナウイルスの影響により学校への訪問を見合わせる事となった。
- ・市長室の窓から日甜の工場が見えるが、今年も水蒸気が上がり85年目の操業が始まった。今年には裁断機を2台新設し、12トン平ボディのトラックがビートを載せたまま作業が可能となった。
- ・本日の会議では士別市財政健全化実行計画（案）について、基本的な考え方は私から、詳しい内容は丸財政課長から説明させていただく。

3 協議・説明事項

●牧野市長

「協議・説明事項」士別市財政健全化実行計画（案）の概要について説明する。

本市は、平成17年に旧士別市と旧朝日町が合併したことにより、天塩川の源流であり、水稲・畑作・酪農・畜産と農業の全てが揃っている魅力的な地域となった。

その一方で、行政面積は1,120平方キロメートルとなり、集落が分散していることから、道路・橋梁の整備やごみの収集などインフラ整備をはじめ、行政サービスに莫大な費用がかかる。

そのため、平成19年から24年にかけて5年間の財政健全化計画が進められていた。私が市長に就任したのは平成21年であり、削減3年目のことだった。

この計画の期間満了後においても、財政の健全化に努めてきたところであるが、想定外の出来事が2つあった。

1つには「市立病院の経営悪化」である。平成16年から変更された研修医制度によって研修医が自分の希望する病院で勤務できるようになった。そのため、地方の病院の医師不足に拍車がかかり、多い時には28人ほどいた医師が、今では10人ほどになってしまった。一般会計から累計34億円の追加繰出金を支出せざるを得なくなったものの、10月の広報しべつに詳しく記載しているが、長島院長が先頭に立ち経営改革に取り組んでいる成果が表れ、この4年間は追加繰出しせず、逆に4億円ほどの積高を確保している。

2つめは「東日本大震災」である。平成23年に発生した未曾有の災害によって、東北

地方を中心に大きな被害が出たところであるが、このため被災地の復興に多額の予算が充てられ、様々なプロジェクトが変更を余儀なくされた。本市では環境センター建設にあたり、およそ38億円の予算を見込んでいたが、建設予定地の変更や入札の不調により52億円の経費が膨らんでしまった。無駄な施設を建てているのではないかとの意見もあるようだが、土別市総合計画に則り、議会の同意も得て整備を進めてきたところであり、市民生活に不可欠のものである。

現在は、経常収支比率が99.5パーセントとなっており、予算を自由に使うことができない。全道で3番目に高い比率であり、しっかりした財政基盤にするため体質を改善しなければならない。

市立病院については、現在の148床から20床減らす考えで、それにより7000万円ほど交付税が増える見込みであり、市からの繰出金8億円を基本に、今後も地域医療を守っていかなければならない。

事務事業について、委託費などを中心に見直しを行うことは勿論だが、定員の適正化などにも取り組まざるを得ない。職員定数は9パーセントに当たる30人の減により2億円ほどの経費削減を見込んでいる。また、市長は20パーセント、副市長は15パーセント、教育長は10パーセント、その他の職員は5パーセントの給与削減と管理職手当の10パーセント、期末手当0.3月分、各種委員報酬5パーセント削減を計画しており、労働組合にも提案しているところ。

改革を行うにあたっては、市民や関係機関、職員などそれぞれが痛みを伴うことになるが、先頭に立ち財政健全化に取り組んでいく所存である。委員のみなさんには少ない報酬のなかボランティアの精神で務めていただいているが、どうかご理解いただき、計画の推進に協力をお願いしたい。この後は財政課長から説明する。

●丸課長

本市の決算状況は赤字ではないが、平成29年から3年連続で財政調整基金を取り崩して黒字決算としている。予算には必ず財源が必要であり、目的が決まっている「特定財源」と、自由に使える「一般財源」の2つがあるが、「一般財源」が不足し、単年で見ると赤字になりギャップが生じている。このままだと財政調整基金が枯渇してしまう。「一般財源」は、市税・交付税などであり、今後も大きな伸びは期待できない。

本市の財政状況において、特に経常収支比率の高さが問題となっている。この率が100に近いほど財政が硬直化しているということだが、平成24年以降は90パーセント以上であり、今年度は99.5パーセントであった。基金の残高については、平成22年頃までは7億円ほどであったが、平成27年には16億円まで増加したものの、現在はおよそ10億円まで減少している。

現状のまま推移すると、総合計画期間の令和7年までに3億2千万円ほど不足する見通しであり、令和6年度には早期健全化基準を超えることが見込まれる。

そこで、令和3年度から具体的な方策を講じていくが、令和9年までは単年度収支が赤字になる見込み。令和10年には公債費が令和元年の水準に戻る見通しである。

財政健全化計画は目的ではなく手段であり、現在のままでは住民福祉などの質を維持することが困難になる。断腸の思いだが、ご理解いただくようお願いしたい。

●牧野市長

歳出を抑制するため、計画期間内の研修事業を凍結するが、子どもが行う研修については、現況を維持していく。

皆さんから何かあれば発言願う。

●山田委員

人件費の削減によって、予算上の自由度を確保できるのか。それとも、これでもギリギリで、削って終わりということになるのか。

●牧野市長

人件費削減は3年間の計画であり、その後復元する。職員定員の適正化（削減）は、将来につながっていく。但し、現在の状態では難しいので、機構改革したうえで取り組んでいく。職員の意識改革により超勤も減少しており、定数減でも対応できると考えている。市民サービスが低下しないよう努める。病院の健全化については、方向性が見えてきたところ。

●五十嵐職務代理者

人口は、毎月の広報でも示されているとおりに減少している。人が減ると入ってくるお金も減ってしまう。何か対策が必要であり、思い切った対応策も必要。市民の理解とガマンを求めていくことも仕方がないことだと感じている。

●牧野市長

スキー場も2つあり、サウナのある公共浴場は4つあるなど、本市は施設の数が多い。日向温泉やサイクリングターミナルなどは繁忙期以外は閉めることも検討する必要がある。市民の中には反対意見もあるだろうが、理解を得ていきたい。

●山田委員

大きな決断をもって進めていきたいという、計画に対する強い気持ちは伝わってくる。ところで、5年間で、先の見通しはしっかりと立つのか。

●牧野市長

そのように考え、計画している。また、地域経済も考慮する必要がある、その対応にも努めていきたいと考えているが、民間にもがんばってもらいたい。

●加藤委員

大きな決断だと感じる。計画から子どもの学びや高齢者の生涯学習などを止めないと聞いて安心した。我々も、知恵を出していきたい。

●牧野市長

是非、宜しく願います。子どもたちの学びについては、皆さんの知恵も得て、充実させていきたい。厳しいなかではあるが、しっかりと進めていく。財源は有限だが、知恵と情熱をもって取り組んでいく。様々な分野に向けて、ご提言いただきたい。

●牧野市長

その他にご意見などあれば発言を。

●五十嵐職務代理者

リニューアル後のつくも水郷公園について、子育て中の知人から「子どもを自由に遊ばせることができ、とても気に入っている」と好評であった。また、博物館も見どころがたくさんあると評判が良かった。

●加藤委員

しずお農場が経営しているキャンプ場が盛況で、入場できなかった人が、つくも水郷公園でキャンプしたところ、「とてもよかった」との話も聞いた。

●牧野市長

とても嬉しい報告である。すぐ担当者に伝えたい。

以上で総合教育会議を終了する。

【 会 議 終 了 】